

いわき湯本病院

平子 真由美（看護師 外来主任）

- 功 績** 外来主任の平子真由美看護師は福島県糖尿病指導士資格を取得し、糖尿病教育入院患者対応を行なうとともに、外来患者向けに「健康を維持する食事のあり方新聞」を毎月制作し、糖尿病への理解を進めるとともに、地域における当院の存在意義を示したという功績。
- 推 薦 者** 大 淵 靖世（看護師長/看護師）
- 推 薦 理 由** 平子看護主任は、自ら進んで糖尿病関連の知識習得、資格取得を行なうとともに、外来患者さん全般に糖尿病にならない為にはどのようにすればいいかを分かりやすく伝えています。これから更なる成長を期待して、理事長賞に推薦します。

内 容

外来主任の平子真由美看護師は勤続20年で、外来看護に精通しており、外来全般のリーダーシップを取っている。5月より始まった新型コロナワクチン接種においても主体的に行動し、連携する介護施設へ訪問し、施設看護師からも信頼を得ている。

2014年には福島県糖尿病指導士の資格を取得し、外来における糖尿病患者の食事指導、管理を行っている。

特に5年ほど前、いわき市内の糖尿病専門クリニックと連携してからは、多くの糖尿病教育入院の患者さんを受け入れているが、入院患者さんの糖尿病管理においても病棟看護師に指導を継続し、糖尿病患者管理を主体的に実践している。

また糖尿病専門クリニックの糖尿病教室を積極的に受講し、糖尿病看護を学び、外来指導に活かしている。外来におけるインスリンの導入も指導管理を行ない順調に進めている。

患者さんへ糖尿病を知っていただく為、外来患者全員対象に手書きの「健康を維持する食事のあり方新聞」を4年前から作成し、毎月外来に掲示している。外来患者さんからは「分かりやすいし、すぐ活かせる内容で毎月楽しみです。」と好評である。

そして外来患者さんのケースカンファレンスを毎週主体的に行ない、外来患者さんのQOL向上に向けて実践を行なっている。

コロナ禍で外来患者さんは減少傾向ではあるが、このような平子看護師の取組は当院の取組を地域の方々に知っていただき、当院が地域でなくてはならない病院である事を周知するのに重要な役割を果たしている。これらの行動は今年度予算達成していく為にはなくてはならないものであるので理事長賞に推薦する。